

## 第4編 生涯学習

### 第1章 生涯学習の拠点整備

#### 第1節 群馬県立図書館

##### 1 概 況

群馬県立図書館は、情報化、高齢化の進展など急激な社会変化の中で、県民の多様な学習要求に対応した生涯学習を支援するため、社会教育施設の中核として、県民の期待に応え得る図書館づくりに努めてきた。

本年度は、調査相談機能の充実を図るとともに、調査研究のための専門的な資料や調査に役立つ資料のほか、群馬県に関する資料や県内公共図書館・学校図書館を支援するための資料を重点的に収集することにより、専門的資料の充実に努めた。

また、情報の集積と発信を行うため、多様な主体と様々な連携事業（企画展示等）を実施した。

さらに、「群馬県読書活動推進計画」の推進を図るため、全ての県民の読書活動推進のための各事業に積極的に取り組んだ。

##### 2 図書資料の整備状況

###### (1) 図書館資料保有状況（令和2年度末）

###### ア 図書

本館用（館内）図書	813,905冊
町村一括貸出用図書	10,722冊
団体貸出文庫用図書	38,542冊
計	863,169冊

###### イ 雑誌・新聞の受入

一般雑誌	2,048タイトル
郷土雑誌	1,722タイトル
新聞	124タイトル
計	3,894タイトル

###### ウ 視聴覚資料

合計	CD	カセット テープ	レコード	ビデオ テープ	DVD	レーザー ディスク
49,044	26,981	96	13,911	5,393	2,481	182

###### エ 新聞等マイクロフィルム（CD-ROM含む）

9,492巻

###### (2) 特別文庫

高橋文庫	7,623冊
中島文庫	14,192冊
住谷文庫	19,564冊
小野寺文庫	5,497冊
根岸文庫	5,228冊

###### (3) 県立図書館情報提供システム

###### ア オンラインネットワーク接続状況（令和3年3月31日現在）

データ提供館	69館
--------	-----

検索のみの参加館 91館

イ データ入力状況（令和3年4月1日現在） (件)

一般図書	郷土資料	雑 誌	視聴覚資料	合 計	登録書誌数
789,032	121,822	331,534	54,979	1,297,367	2,966,691

### 3 利用の状況

館全体の資料等利用状況

入館者数	121,315人
登録者数（本館）	138,434人
うち新規登録者数（本館）	1,541人
レファレンス件数	17,072件
インターネットホームページアクセス件数	767,836件
貸出人数（本館）	46,090人
個人貸出冊（点）数（本館）	220,623冊（点）
相互貸借冊（点）数	11,908冊（点）
開館日数	242日

### 4 事業概要

#### (1) 読書活動推進事業

##### ア 図書館こどもまつり

群馬県選挙管理委員会と連携した「こども選挙」、ぐんま昆虫の森やぐんま天文台と連携した各種イベント、読み聞かせなどを2日間開催する予定であったが、コロナ禍のため中止した。

##### イ 全国高等学校ビブリオバトル2020群馬県大会

全国高等学校ビブリオバトル決勝大会はコロナ禍で中止となったが、県大会は規模を縮小して開催した。

参加人数は48人であった。

##### ウ 企画・実施事業

###### (ア) ぐんま再発見講座（4回開催、参加人員 延べ142人）

- ・群馬の万葉歌
- ・関白近衛前久と戦国上州
- ・日本史の中の吾妻の史話と伝説 ～ヤマトタケル、木曾義仲、真田忍者～
- ・「利根川を知る」～プラタモリ風、利根川めぐりの旅の案内～

###### (イ) 第18回県図書館大会（参加人員 245人）

###### (ウ) ぐんま天文台との連携／天文台toビブリオバトル（参加人員10人）

##### エ 資料展示（図書館資料の紹介）

###### (ア) 常設展示（デジタルライブラリーコレクション）

###### (イ) 企画展示 他団体等との連携展示、埋もれた資料に光をあてる展示を実施。

- ・ググっとぐんま パンフレット展（ググっとぐんま観光宣伝推進協議会と連携）
- ・ぐんま『フィルムコミッション』特別展示（eスポーツ・新コンテンツ創出課と連携）
- ・みなかみ町企画展示「Friendship Box 台湾・台南市×みなかみ町」（みなかみ町と連携）
- ・「絲山秋子」展（土屋文明記念文学館と連携）
- ・「がんピアサポーター ー経験者による患者支援ー」（保健予防課と連携）
- ・「木暮正夫」展（前橋文学館と連携）
- ・齋藤喜博関連展示（群馬大学と連携）

郷土資料

- ・群馬の水害を知る
- ・日航機墜落事故から35年
- ・群馬の音楽
- ・ふるさとの味
- ・富岡製糸場と渋沢栄一

#### 絵本展示

- ・にじのえほん／うみのえほん／みずのえほん
- ・はなのえほん／へいわをかんだる／みずしぶきのえほん／ バイオリンのえほん
- ・くろのえほん／うちゅうのえほん／バスのえほん
- ・きのえほん／きのこのえほん／くまのえほん
- ・ほんのえほん／きゅうじょのえほん／ようふくのえほん／ピザのえほん
- ・クリスマスのえほん
- ・しのえほん／おにぎりのえほん／ホットケーキのえほん／おんぶのえほん
- ・えがおのえほん／かがくのえほん／ねこのえほん／ビスケットのえほん
- ・ランドセルのえほん／さくらのえほん

#### (2) 市町村等支援及び学校図書館等への支援

##### ア 図書館未設置町村等図書配送サービス

4コース、12町村（5町7村）

##### イ 市町村支援協力車による巡回サービス

5コース6ルート52館（高校図書館等74館は相互貸借がある時のみ巡回）

##### ウ ネットワークの推進

- ・相互貸借の推進
- ・Gネット（群馬県内図書館情報ネットワーク）への参加・接続支援

##### エ 学校図書館図書支援1000冊プラン

指定地域5町村の学校図書館に、計2,720冊を貸し出した。

##### オ 学習支援・朝の読書推進図書セット貸出

- ・学習支援図書セットとして、236セット6,525冊を学校等42か所に貸し出した。
- ・朝の読書推進図書セットとして、年2回、計13,510冊を29校に貸し出した。

##### カ 学校図書館研修会

学校司書等に対する学校図書館運営実務に係る研修を開催した。

参加人員は49人であった。

##### キ 図書館(室)職員初級研修

新規採用及び経験1年未満の職員を対象に、日常的な図書館業務を深めるために研修を開催した。参加人員は59人であった。

##### ク 図書館(室)職員実務研修

図書館の専門職員としての職務を遂行する上で必要な実務的な知識や技術についての研修を開催した。オンラインで開催し、参加人員は63人であった。

##### ケ 図書館(室)職員専門研修

オンラインで開催し、参加人員は30人であった。

## 5 図書館協議会

協議会を2回開催し、館の運営について幅広い見地から意見をもらい、その実現に取り組んだ。

第1回 7月22日

第2回 3月（書面開催）

## 第2節 群馬県生涯学習センター

### 1 概 況

本県の生涯学習推進の中核的施設として、市町村及び関係機関・団体との広域的連携を図りながら、県民の多様な学習ニーズや社会の要請に応えるとともに、少年科学館や視聴覚センターを併設する多機能なメリットを生かし、子どもを含めたあらゆる世代の県民の学習活動を支援するため、次の4事項を重点として事業を実施した。

- (1) 生涯学習環境の整備
- (2) 人材育成の推進
- (3) 少年科学教育の推進
- (4) 施設の活用促進

### 2 事業の概要

#### (1) 生涯学習環境の整備

県民の多様な学習ニーズに対応するため、学習支援の体制づくりやICT活用の促進等の環境整備をすすめた。

#### ア 学習支援・相談体制の整備

##### (ア) ぐんま県民カレッジ運営

市町村等と連携した広域的な学習機会提供体制を運営し、県民の多様な学習需要に応えた。

- ・連携機関数 538機関
- ・入学登録者数 新規：72人、累計：11,278人
- ・奨励賞 妙義賞7人、榛名賞3人、赤城賞4人

##### ○ぐんま県民カレッジのつどい（中止）

##### (イ) 群馬県生涯学習情報提供システム（まなびねっとぐんま）運営

インターネットを利用し、県内の生涯学習に関する講座やイベントに関する情報を提供するシステムを運営。令和2年度から「ぐんま県民カレッジ」と一体的に運営。

- ・アクセス実績 38,689件

##### (ウ) 学習情報・相談運営

- ・相談件数 139件（電話を含む）
- ・関係図書・資料 603点
- ・育児学習室利用者数 14人(3月のみ開室)

#### イ 調査研究の推進

##### ○「生涯学習ぐんま」作成

特集テーマ：家庭で親子が笑顔で過ごすために、今地域でできること、しなければならないこと

#### ウ ICT活用の推進

##### (ア) 県視聴覚センター管理・運営

年1回、資料選定委員会を開催し、視聴覚資料の選定に関する協議を行い、選定された資料を県視聴覚センターに収集している。令和2年度は、人権、長編アニメ分野の24作品を購入した。

利用件数

種 別		件 数
視聴覚教材	ビデオ	2
	DVD・BD	159
	16ミリ映画	8

	その他	0
計		169
視聴覚機器	液晶ビデオプロジェクター	93
	スクリーン	48
	16ミリ映写機	4
	ノートパソコン	14
	その他	95
視聴覚教材ダビングサービス		39
計		293

○ぐんまファミリー映画会（中止）

(イ) 県視聴覚ライブラリー連絡協議会運営

・加盟団体数 14機関

○総会・教育関係者部会（書面開催）

○教育メディア指導者養成講座(実施日数：3日間 受講者：45人)

○県自作視聴覚ソフトコンクール

・応募点数：29点

教育長賞（最優秀賞）2点、協議会長賞（優秀賞）2点、入選4点

(2) 人材育成の推進

県内の生涯学習に関わる要請に対応できるよう、生涯学習指導者となる人材を育成する研修会を開催した。

ア 社会教育支援

○社会教育推進セミナー（書面・DVDを配布）

○社会教育実践研修（実施日数：5日 受講者：149人）

イ 家庭教育支援

○家庭教育支援者養成講座（実施日数：5日間 受講者：335人※内オンライン177人）

○ぐんまの家庭教育応援フォーラム（10月2日開催 受講者133人※内オンライン71人）

○家庭教育支援幼児安全セミナー（中止）

○ぐんまの親の学びプログラムファシリテーター養成講座(中止)

ウ 情報教育支援

○教育メディア指導者養成講座(実施日数：3日間 受講者：45人) ※再掲

エ 現代的課題解決支援

○支援講座Ⅰ【地域課題編】(実施日数：3日間 受講者：114人)

○支援講座Ⅱ【学校と地域の連携協働編】(実施日数：2日間 受講者：308人)

(3) 少年科学教育の推進

ア 少年科学館の運営

(ア) 科学展示室運営

・展示物36点、11月より土日祝開館

・科学関係図書の閲覧、DVD視聴スペース「しらべコーナー」を運営

・実験コーナーで科学工作等の実施 第4を除く毎週日曜（14：45～15：15）

・サイエンスショー 第4日曜（14：30～15：00）

・サイエンスボランティアコーナー 土日祝（12：30～13：30）

(イ) プラネタリウム運営

通年の番組1本、季節ごとの番組8本を投影、番組冒頭に季節ごとの星座解説を行った。

また、学校の教育活動に対応した「学習投影」を実施した。

・定員を42名に減らし、6月より投影

- ・天文コーナー 毎週土祝「4次元デジタル宇宙」の上映
  - ・子ども宇宙教室「ブラックホールって何？」(1月31日) 参加者：19人
  - ・天体観察会「夏の星めぐり」(8月26日) 参加者：42人
  - ・天体観察会「秋の星めぐり」(10月30日) 参加者：38人
  - ・星空とCD音楽の集い(毎月1回、土曜日に実施) 参加者：285人
  - ・大人の天文講座(全5回) 参加者：135人
- (ウ) 科学実験室運営  
おもしろ科学教室等を行うとともに、学校の理科学習等の教育活動を支援した。
- ・定員を15名に制限 一般利用：908人
  - ・学校利用：44校1653人
- イ 科学教育の充実・普及
- (ア) おもしろ科学教室  
子どもたちの学校外活動の充実と「科学する心」を育むため、県内関係機関と連携し県内全域で科学実験、野外観察等を実施するとともに、教材集を作成配布した。
- ・実施計画：84回、連携機関：48機関、9月～12月実施 参加者：474人
  - ・科学教室運営協力者会議 2回
  - ・「おもしろ科学教室教材集－31－」(1,100部)の作成・配布
- (イ) 学習プログラムの提案・実施  
実績 幼稚園：6園220人、小学校：32校1,431人、中学校：3校80人  
特別支援：5校49人
- (ウ) 夏とくイベント  
・実施期間：7月22日～7月26日(中止)
- ウ 科学教育推進体制の整備・充実
- (ア) 学校外活動推進事業  
・科学教室指導者実技研修会 2月27日(中止)
- ・児童生徒理科研究作品展、児童生徒理科研究相談会(中止)
  - ・教材検討委員会 3回
- (イ) サイエンスインストラクターの会  
総会 2月27日 リモート開催  
科学教室運営協力者会議 10月10日
- (ウ) 県プラネタリウム連絡協議会  
県内プラネタリウム9館とぐんま天文台で組織  
スタンプラリー(中止) 協議会研修会4回 書面開催
- (エ) 他機関との連携・協力  
・夏とくイベント等登録団体：31団体

### 3 利用状況

#### (1) 入館者数

		総 数	うち少年科学館			
			プラネタリウム	科学展示室	科学実験室	
入館者数 (人)	令和2年度	45,327	11,473	4,492	4,420	2,561
	累 計	7,666,933	3,786,907	915,864	2,691,565	179,478

#### (2) 視聴覚センターの利用件数

	視聴覚教材	視聴覚機器
令和2年度利用件数(件)	169	293

## 第3節 群馬県立ぐんま天文台

### 1 概況

群馬県立ぐんま天文台は、県人口200万人到達記念事業として吾妻郡高山村に建設した、教育普及、観測研究を行う天文台である。

平成11年4月28日にファーストライトを行い一部オープンした後、遊歩道、屋外モニュメント等の完成を待って、同年7月20日に竣工式、翌21日に全面オープンした。

昼間は施設見学、夜は原則として水・木・金曜日を予約団体利用の天体観望日、土・日曜及び祝日を一般向けの天体観望日として広く県民に開放している。

教育普及面では、広く県民を対象とした各種イベントを行っているほか、学校教育に関しては「連携協力校実践事業」「スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）」「サイエンス・パートナーシップ・プログラム（SPP）」にも積極的に取り組んできた。また研究面では、国内外の研究機関・研究者との情報交換や超新星・ガンマ線バースト等の天体現象の初期観測、150cm望遠鏡をはじめとする各種望遠鏡とそれらの各種観測施設装置による本格的な研究を行ってきた。

他方、平成20年度に「群馬県公共施設のあり方検討委員会」での検討結果で「直ちに廃止すべきとまでは言えないが、運営内容等の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が強く求められる施設」とされた。

このことを踏まえ、平成21年度以降の事業展開にあたり、管理運営費の削減と運営体制の見直しを行った。さらに、学校利用の一層の促進や県民の学習施設として、教育普及事業に重点を置いた施設運営を推進するとともに、学校や地域に積極的に出向き、県内における天文学のすそ野拡大を図っている。

平成24年度には、専門家、地域代表、有識者等からなる「県立ぐんま天文台のあり方検討委員会」において、運営方針等について検討し、今後のぐんま天文台のあり方について提言を受けた。この提言を受け、平成25年度「天文学の教育普及に重点を置き、『天文学を通じて学校・地域と協働し、多様な学習機会を提供する教育施設』として、効率的な施設運営と利用者の拡大に努め、県民に親しまれるぐんま天文台として運営する」との新しい運営基本目標並びに「本物の体験」「開かれた利用」「学校・地域との協働」を柱とした事業基本項目を定め、事業を展開している。

### 2 施設見学・観望

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として次の対応を行ったことから、施設見学や観望を一部制限することとなった。

- ① 夜間観望を予約制とし、人数制限を行った。なお、県の警戒度がレベル4になった時点で夜間観望を中止した。
- ② 感染者数が増加し、全国的に緊急事態宣言が発令されたこと等に伴い休館とし、昼間の施設見学を中止した。

### 3 教育・普及活動

#### (1) 学校利用

令和2年度は55校、1,598人の学校等団体利用を支援した。利用する学校側の意識は、単に施設見学をしたり観望したりするだけではなく、明確な学習目的を持って利用する学校が増えてきている。特に高等学校では、専門的な内容を授業に取り入れたり、観測実習を実施したりと、科学教育の中での位置づけを意識して利用している傾向が強い。

#### (2) 天文台学校利用説明会

天文台の学校利用を促進するため、北毛青少年自然の家と連携し、同施設主催の学校利用説明

会の場において、同施設利用予定の学校に対して、天文台の活用方法や天文台が提供している学習プログラムの紹介及び、学校利用説明会終了後に、天文台学校利用見学会を実施し、希望する学校に対して天文台施設の案内も行ってきた。しかし令和2年度は感染症対策のため、北毛青少年自然の家の学校利用説明会を中止とし、紙面での学習プログラムの紹介のみとした。

(3) 授業サポート支援

小・中学校からの希望に応じて、月や恒星、星座の学習において星座案内や望遠鏡を用いた天体観望を各校の校庭等で実施した。令和2年度は21校1150人の参加者（児童生徒及びその保護者）であった。また、オンラインでの授業サポートを試験的に実施した。

(4) 子ども向け事業

天文台職員による県内教育文化施設等での子ども向け出張講演会（子ども宇宙教室）を1回実施した。予定では2回であったが、6月は感染症対策のため中止となった。

(5) 主なイベント

日付	行事内容	参加者数(人数)
5月2日～5月6日	ゴールデンウィーク特別企画	中止
6月21日	部分日食の動画生配信	再生回数 約2万回
7月18日、11月7日	星空さんぽ	80
7月23日～8月23日(19日間)	夏休み特別企画	中止
8月13日	ペルセウス座流星群説明会・観察会	中止
10月6日	火星準大接近の動画生配信	再生回数 約6500回
12月12日、12月13日	ふたご座流星群の動画生配信	再生回数 約18万回

#### 4 観測研究

県民への教育普及活動での活用等を図るため、幅広い観測研究を行った。

#### 5 月別観覧者数(人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	399	896	2,184	1,307	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,060	1,719	581	76	244	377	9,843

#### 6 年度別観覧者数(人)

平成11-27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	累計
607,476	29,018	28,210	39,786	30,310	9,843	744,643

※ 令和元年度以降は、新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館を実施したこと等が影響し、観覧者数が減少している。

## 第4節 群馬県立ぐんま昆虫の森

### 1 概況

群馬県立ぐんま昆虫の森は、昆虫の生きた姿に直接触れ、生きものの相互依存に学び、生命の大切さや自然への理解と共感する心を育てるため、里山として豊かな自然が残されている桐生市新里町（旧勢多郡新里村）不二山地域に整備したものである。

平成14年6月から、雑木林ゾーン及び桑畑ゾーンの2つのゾーンについて一部利用を開始し、昆虫観察館等全ての施設が完成した平成17年8月1日に全面オープンした。



開園後は、雑木林や田畑等45ヘクタールにもおよぶ園内を、生物の棲息空間として維持管理しながら、昆虫の森ガイドや自然観察会、飼育室探検ツアー、ふれあいコーナー、クラフト体験、里山生活体験等さまざまなプログラムを展開し、平成30年の10月6日に開園以来の入園者が150万人に達した。

令和2年度は、企画展、季節展、虫の絵作品展、フォトコンテスト作品展などの展示会を開催するとともに、新聞雑誌等の取材対応、ホームページやTwitterなどの広報媒体を通じて、ぐんま昆虫の森の広報普及に努めたほか、幼稚園・保育所及び学校関係者を対象に利用説明会を5回開催し、学校行事等としての見学利用の促進を図った。

これまでに、多くの学校関係者が視察し、総合学習や理科の学習の一環として、あるいは遠足等で県内外の小学校、幼稚園・保育所が利用するとともに、ボーイスカウトなどの各種団体や多くの家族連れなどが来園した。

なお、ぐんま昆虫の森の運営で欠かせないのがボランティアで、登録者104名を数え、自然観察会や昆虫観察会等のガイドとして大きな役割を果たしている。

ぐんま昆虫の森は、平成20年度に「群馬県公共施設のあり方検討委員会」での検討結果で「直ちに廃止すべきとまでは言えないが、運営内容等の徹底した見直しと利用者増加の積極的な努力が強く求められる施設」とされた。

このことを踏まえ、経費全体を抑えながらも昆虫の森の魅力を損なわず有効に活用するため、園全体の運営を見直し、学校教育補完施設と位置づけてフィールドの魅力を高め、様々な学校利用促進策や地元との連携強化による入園者増加策等を展開している。

## 2 教育・普及活動

ぐんま昆虫の森は、身近な自然の中で生きものを見つけて、環境と生きものとの関係を自主的に知るきっかけをつくる場所である。このため、様々な体験プログラムを来園者に提供し、気軽に生きものと出会える機会を提供している。

### (1) 里山歩き・自然観察会

園内の見どころを紹介するほか、季節ごとにかわる生きものたちの様子を詳しく観察するガイドツアーの実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

- ・ホタル観賞会（中止）
- ・夜の雑木林の昆虫（中止）
- ・夜の鳴く虫（中止）

### (2) 里山生活体験

かやぶき民家を中心に、稲作体験、草木染め等かつての里山生活の体験や昔遊びなどを体験できるプログラムを実施した。

### (3) バックヤードツアー（中止）

普段入れない飼育室の様子を見たり、昆虫専門員が生きもの不思議について説明する飼育室探検ツアー(カブトムシや水生昆虫がメイン)とチョウ飼育室見学ツアー(チョウの幼虫や蛹がメイン)の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

### (4) クラフト体験

飛ぶチョウなどのミニクラフト、どんぐりカー等、昆虫の森での産物を使った様々なクラフト体験を実施した。

### (5) 温室ガイド（中止）

スタッフのガイドで昆虫ふれあい温室の生き物や植物を観察しながら、温室内にチョウを放す体験の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

### (6) ふれあいコーナー（中止）

カブトムシやクワガタムシなどの身近な生きものに触れ合える体験の実施を予定していたが、

新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

(7) 常設展示「昆虫のすばらしい世界」

写真や図、生態展示や標本などを用いて、昆虫について基礎からわかりやすく解説した。

(8) 映像シアター

里山で昆虫たちがどのように暮らしていて、どんな方法で観察するのかなどをわかりやすく解説した映像を上映した。

(9) 別館プログラム（中止）

昆虫観察館別館では、昆虫標本を作製する「昆虫教室」の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

(10) 飼育講座

家庭でも飼育できる昆虫の飼い方を昆虫専門員が説明します。

- ・ナナフシ飼育講座（中止）
- ・ノコギリクワガタ飼育講座（中止）
- ・オオクワガタ飼育講座（11月14日・15日、21日・22日、28日、29日 参加者830人）
- ・カブトムシ飼育講座（中止）

### 3 企画展等イベントの開催状況

NO	企画展等の概要	開催期日	期間中の入園者数(人)
1	季節展「虫たちの季節がやってきた！」 (早春編)	2月29日～4月19日	484
	同 (初夏編)	4月23日～6月28日	※3/2～6/1 閉園 5,489
2	15周年特別イベント		41,759
	・夏の特別展「カブトクワガタ展」	7月4日～8月30日	
	・第17回企画展「昆虫食展！」 ・むしむしキッズランド	7月4日～11月3日 7月23日～11月3日	
3	県民の日イベント	10月28日	688
4	第15回「虫の絵」作品展	11月7日～12月24日	12,569
5	季節展「昆虫たちの冬越し展」	1月6日～2月23日	4,975
6	第15回「フォトコンテスト」作品展	1月6日～2月23日	4,975
7	季節展「虫たちの季節がやってきた！」 (早春編)	2月27日～4月18日	11,644

### 4 月別入園者数（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	5,489	10,867	9,755	7,075	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12,551	11,720	2,360	1,459	4,421	5,747	71,444

### 5 保育所・幼稚園、小学校等の団体利用状況

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

	幼・保	小学校	中学校	高校	特別支援	大学・他	合計
利用団体数	42	145	1	1	0	1	190
利用者総数	1,293	10,017	32	36	0	11	11,389

## 6 昆虫の森学校利用説明会の実施

ぐんま昆虫の森の学校利用を進めるため、県内の保育所・幼稚園及び小中学校等の教員を対象とした説明会を開催し、施設の活用方法や施設が提供している学習プログラムの紹介等を行った。令和2年度は、4回実施した。

・小中学校利用説明会

第1回8月4日、第2回8月5日、第3回8月20日、第4回8月21日 参加者計125人（62校）

## 7 生徒・学生の受入実績

昆虫に興味・関心のある生徒や、飼育関係や生物を扱う職業に就きたいと考えている生徒のキャリア教育や学芸員資格取得の一環として、職場体験学習やインターンシップ、博物館実習を実施した。

区 分	受入数
職場体験・インターンシップ	1校（専門学校）1名
博物館実習	2校（大学）2名

## 第5節 ボランティアと協働した施設の運営

### 1 図書館ボランティア

図書館でのボランティア活動を希望する人々に対し、図書資料の配架、イベント時の補助等生涯学習の活動の場を提供するとともに、高校生を対象に社会参加と体験活動の場を提供し、県民の参画による「明るく、開かれた、親しまれる図書館」づくりの促進を図った。

活動人員 一般67人、高校生15人 計82人

### 2 ぐんま天文台ボランティア

天文台では、来館者の誘導・案内、星座解説、自主企画イベントの計画と実施、周辺環境の整備を行うボランティアが活躍した。

活動人員 51人

### 3 ぐんま昆虫の森ボランティア

昆虫の森では、自然観察会や昆虫観察会、昆虫ふれあい温室等の案内やクラフト体験の指導、昆虫飼育等を行うボランティアが活躍した。

活動人員 49人 延べ活動日数 267日

### 4 生涯学習センターボランティア

生涯学習センターでは、館内ボランティアが、子育て支援及び少年科学館運営の2分野で活動を行った。

活動人員 延べ31人（子育て支援6人、少年科学館運営25人）

## 第2章 学習情報提供・相談体制の整備・充実

### 第1節 学習情報提供体制

#### 1 学習情報提供システムの運用

県民の生涯学習活動を支援するため、インターネットを利用した誰でも、いつでも、どこでも、必要な学習情報を容易に入手することができる群馬県生涯学習情報提供システム「まなびねっとぐんま」（インターネット方式）を平成12年6月20日から運用している。

平成21年4月1日から、会員登録した県民個人・県民の団体及び関係機関等が、自ら企画した講座・イベント情報や活動内容の発信ができるなど、より利便性の高い新システムに移行して運用を開始し、その普及・定着を図った。

情報提供分野及びデータ件数（令和2年度末現在）

提供分野	データ数	提供分野	リンク数
講座・イベント情報	118	ボランティア	5
(うち県民カレッジ情報)	(106)	女性支援	7
講師・人材情報	71	キャリア支援	11
団体情報	71	子育て支援	13

年間アクセス件数：38,689件

会員別登録数（令和2年度末現在）

端末種類	登録会員数
業務会員	656
一般会員	71
団体会員	71
合計	798

### 第2節 学習相談体制

#### 1 学習相談室の運営

生涯学習センターに学習相談室を設置し、相談員により学習に関する相談に応じるとともに、「まなびねっとぐんま」の情報を検索できるパソコンや生涯学習関連図書・資料を整備し、県民や関係者の利用に供した。

相談件数：139件

関係図書・資料数：603点

## 第3章 読書活動推進

### 第1節 読書活動の推進

#### 1 群馬県読書活動推進計画（令和2年度～令和6年度）

平成31年4月に施行された「群馬県民の読書活動の推進に関する条例」の趣旨を踏まえ、全ての県民が生涯にわたり、様々な場で読書活動が行えるよう環境整備を行うことを基本理念とした「群馬県読書活動推進計画」を令和2年3月に策定した。

県民の読書活動の推進を図るとともに、設定した指標の達成状況の把握により計画の進行管理を行っていく。

<計画期間（令和2～6年度）における目標設定>

(1) 1日当たり30分以上の読書をしている小中学生の割合の向上

区 分	平成30年度 (基準値)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和6年度 (目標値)
小学校6年生	44.5%	43.4%	未実施	50.0%
中学校3年生	34.4%	29.7%	未実施	50.0%

※ 「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)による。

(2) 市町村における子ども読書活動推進計画策定率の向上

区 分	平成30年度 (基準値)	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和6年度 (目標値)
市町村(35)	82.9%(29)	88.6%(31)	91.4%(32)	100.0%(35)

※ 「子供読書活動推進計画の策定状況調査」(文部科学省)による。

(3) 県内の公共図書館の年間貸出点数の増加

平成30年度 (基準値)	平成31年度 (令和元年度)	令和6年度 (目標年度)
10,455,978点	10,074,896点	10,500,000点

※ 「群馬県の図書館」(県立図書館)による。

## 2 主な取組

県民の読書活動推進を図るため、啓発等の事業を実施した。

(1) 若い世代へ向けた「読書対談」動画の制作・配信

読書離れが特に顕著であると言われる若い世代へ向けて、本や読書に興味を持つきっかけとなることを目的に制作した。

○動画名：【読書対談】人気作家が贈る一読書の魅力

(2) 読み聞かせボランティア向け研修動画の制作・配信

子どもの読書活動推進に大きな役割を果たす読み聞かせボランティアのスキルアップを図るため、主に初心者に向けた研修動画を制作した。

○動画名：ボランティアのための読み聞かせ講座

(3) 小中学生向けブックリストの編集

県内各公立小中学校、公立図書館(室)、県民から広く推薦図書を募り、子どもたちが発達段階に応じて、たくさんの本に出会うきっかけとなるような「ブックリスト」の編集をすすめた。

## 3 県立図書館における取組

県立図書館において、図書資料の充実整備とあわせて各種イベントの実施や資料展示等を行った。(第1章・第1節・4事業概要・(1)読書活動推進事業参照)。

## 4 その他の関連事業

(1) 優良図書館群馬県教育委員会表彰

社会教育の中核施設である図書館の充実振興を図るため、その運営が地域社会の繁栄と住民の生活文化の向上に顕著な実績をあげている図書館を優良図書館として表彰した。

○令和2年度受賞館：甘楽町図書館

(2) 群馬県読み聞かせボランティア顕彰

地域における子どもの読書活動への貢献が顕著なボランティアを顕彰し、その熱意と努力に報いるとともに、広く県下に紹介することによって、子どもの読書活動推進の振興を図った。

○令和2年度受賞団体

- ・桂萱読み聞かせの会「はぐはぐ」(前橋市)
- ・堤ヶ岡公民館図書ボランティア(高崎市)
- ・さくらの会(藤岡市)
- ・下仁田読み聞かせの会(下仁田町)
- ・太田市立宝泉東小学校読み聞かせボランティア(太田市)

(3) 子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)表彰(文部科学大臣表彰)

「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年12月12日)の制定を受け、平成14年度から文部科学大臣が子どもの読書を推進する活動が顕著で優秀と認められる学校、図書館、団体(個人)を表彰しており、令和2年度においては、本県から、学校2校、図書館1館、及び1団体が表彰された。

○令和2年度受賞校、図書館、団体(※推薦は前年度)

- ・高崎市立第一中学校
- ・草津町立草津中学校
- ・みどり市立大間々図書館
- ・おはなしの会もこもこ